

## 議 事 録

会 議 の 名 称	第 5 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会																																																				
開 催 日 時	平成 2 8 年 6 月 2 3 日 (木) 1 9 時 0 0 分～																																																				
開 催 場 所	玉里保健センター 1 階 集団検診室																																																				
出 席 者	<p><b>【出席委員】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>石塚 匡巳</td> <td>山崎美奈子</td> <td>小松与士宏</td> <td>田山 憲一</td> </tr> <tr> <td>小山田香代</td> <td>中村 仁樹</td> <td>久保田浩一</td> <td>陽美美由紀</td> </tr> <tr> <td>小松崎由美子</td> <td>宮本真由美</td> <td>箱田 俊男</td> <td>大山 徳</td> </tr> <tr> <td>小林 文雄</td> <td>塚本 繁雄</td> <td>圓尾 康子</td> <td>林 憲昭</td> </tr> <tr> <td>笹目 賢一</td> <td>羽鳥 文雄</td> <td>園部 文夫</td> <td>鶴町 文男</td> </tr> <tr> <td>関 四郎</td> <td>田上 義明</td> <td>亀井 優</td> <td>菊地 和夫</td> </tr> <tr> <td>藤田 泰正</td> <td>戸田 見成</td> <td>荒井 敦</td> <td>小暮 真一</td> </tr> </table> <p><b>【欠席委員】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>瀬畑 誠</td> <td>遠藤 康子</td> <td>額賀 博</td> <td>長谷川美智子</td> </tr> <tr> <td>田中 周</td> <td>大和田智弘</td> <td>大槻 良明</td> <td>山口 淳</td> </tr> <tr> <td>戸田 大我</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>加瀬 博正</td> <td>長谷川正典</td> <td>石田 進</td> <td>中村 均</td> </tr> <tr> <td>比気 龍司</td> <td>植田 薫</td> <td>田山 伸一</td> <td>外之内信浩</td> </tr> <tr> <td>戸塚 聡</td> <td>田村 直弥</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	石塚 匡巳	山崎美奈子	小松与士宏	田山 憲一	小山田香代	中村 仁樹	久保田浩一	陽美美由紀	小松崎由美子	宮本真由美	箱田 俊男	大山 徳	小林 文雄	塚本 繁雄	圓尾 康子	林 憲昭	笹目 賢一	羽鳥 文雄	園部 文夫	鶴町 文男	関 四郎	田上 義明	亀井 優	菊地 和夫	藤田 泰正	戸田 見成	荒井 敦	小暮 真一	瀬畑 誠	遠藤 康子	額賀 博	長谷川美智子	田中 周	大和田智弘	大槻 良明	山口 淳	戸田 大我				加瀬 博正	長谷川正典	石田 進	中村 均	比気 龍司	植田 薫	田山 伸一	外之内信浩	戸塚 聡	田村 直弥		
石塚 匡巳	山崎美奈子	小松与士宏	田山 憲一																																																		
小山田香代	中村 仁樹	久保田浩一	陽美美由紀																																																		
小松崎由美子	宮本真由美	箱田 俊男	大山 徳																																																		
小林 文雄	塚本 繁雄	圓尾 康子	林 憲昭																																																		
笹目 賢一	羽鳥 文雄	園部 文夫	鶴町 文男																																																		
関 四郎	田上 義明	亀井 優	菊地 和夫																																																		
藤田 泰正	戸田 見成	荒井 敦	小暮 真一																																																		
瀬畑 誠	遠藤 康子	額賀 博	長谷川美智子																																																		
田中 周	大和田智弘	大槻 良明	山口 淳																																																		
戸田 大我																																																					
加瀬 博正	長谷川正典	石田 進	中村 均																																																		
比気 龍司	植田 薫	田山 伸一	外之内信浩																																																		
戸塚 聡	田村 直弥																																																				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度スケジュール (案) について</li> <li>・アンケート集計結果について</li> <li>・その他</li> </ul>																																																				
会 議 資 料	別 紙 ( 会議次第、 他 )																																																				
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録																																																				
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開    (傍聴者 0人)																																																				

### 【委員長あいさつ】

この委員会は、昨年8月22日に第1回の建設準備委員会が開かれてから第5回となりました。今年度は最初の会議となりますので、よろしくお願いいたします。昨年度から引き続いての委員の皆様、今年度から新たに委員となられた皆様方にご出席いただき、前向きに検討をご協議いただきますよう、よろしくお願いいたします。今日の議事としましては、事務局より本年度のスケジュールについて説明がございます。平成33年度に統合する玉里地区の小中一貫校としては、様々な教育問題、学校教育法等の一部改正や次の学習指導要領の実施等から考えると、単なる小中一貫校というより、玉里の義務教育学校という方向で進めていくことが児童生徒にとって1番相応しいのではないかと思います。また、玉里地区の4つの小中学校の教職員で構成される「玉里地区小小連携・小中連携推進委員会」では、9年間を見据えた教育課程、例えば1年生～4年生の4年間、5年生～7年生の3年間、8年生と9年生の2年間を学年のまとまりとした「4-3-2制」を考慮に入れて、今年度検討を進めてまいります。建設準備委員の皆様には、前向きにご協議いただき、より良い小中学校の建設準備にあたっていただければありがたいと思います。

### 【委嘱状の交付】

新委員14名を代表し、玉里北小PTA副会長 田山 憲一委員へ交付

### 【建設準備委員会委員の自己紹介】

### 【事務局職員紹介】

### 【協 議】

#### (1) 本年度のスケジュール案について

委員長 事務局から説明をお願いしたい。

事務局 平成28年度のスケジュールを説明させていただく前に、簡単にこの建設準備委員会の概要について説明させていただく。建設準備委員会は、幼小中のPTAや学校職員、地域住民代表、識見者で組織されており、玉里小・玉里北小・玉里東小による統合小学校と玉里中学校による小中一貫校の開校、時期としては平成33年4月に向けた準備をしていく組織となっている。準備に関しては、校舎建設といったハード面から教育内容などのソフト面といった多岐に渡る。また、委員の任期は、統合の日までとなっており、その途中で所属団体の役職交代等があった際には、後任者に委嘱するとしている。し

かし、前年度においては、役員の交代等があった場合でも引き続き委員を担ってくださる方には、委員の定数40人の範囲内をお願いするという方向性となった。その意向調査を前年度の委員へ実施したところ、役職交代となった方に継続希望はなかったため、ここで報告させていただく。

では、今年度はどのような準備をしていくかといったスケジュール案を説明させていただく。資料1に沿って説明させていただく。

まず、上段から説明したい。左側の項目に「建設準備委員会」とある。その項目の平成28年度の欄に、黒丸で示させていただいた。それが現在、事務局案として考えている開催月となっている。まず、今回の6月、次回は7月となっており、先日送付した通知にもあったとおり、先進校の視察を予定している。そして、9月、10月、1月、2月を想定している。これらは、協議の進捗により前後や増減があると思うので、了承いただきたい。

具体的な協議内容については、「小中一貫校整備」の項目を見ていただきたい。その項目の28年度の欄に「基本構想」とある。その「基本構想」についての協議を今年度行っていくこととなる。ここでの「基本構想」とは、玉里地区における小中一貫校の全体的なコンセプトをまとめ、それを校舎の形や配置、土地の利用計画に反映させたものを考えている。例を挙げるとすると、全体的なコンセプトに「安全・安心な学校」とした場合、先生の目が行き届きやすいことや不審者への対策を取りやすくなる校舎のつくりへと反映させていくといったイメージで考えていただきたいと思う。準備委員の新しい学校に対する想いや意見などをいただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。本日は、議事(2)アンケート集計結果についてとあるので、多くの意見をいただきたいと考えている。また、「基本構想」は、施設に関する専門的な知識が必要になってくるため、建設コンサルタントに委託し、作成していく。委員にいただいた意見について、専門的な知識の下、実現の可能性や関係する様々な事象を考慮し、校舎の形や配置などに反映させた案を複数作成していく。イメージとしては、前半部分に学校のコンセプト、後半部分に校舎配置案などになってくるかと思う。

今年度に「基本構想」をまとめることにより、玉里地区の小中一貫校の開校に向け、より具体的な協議、来年度の基本設計における校舎内の図面作成や教育面のより具体的な内容の検討など、スムーズな準備が行えるものと考えている。今年度、この準備委員会で協議するものについては、以上となる。なお、資料の左側の項目において部会が示してある。総務・通学部会については、平成30年度からの協議予定となっている。それより下の項目、学校運営部会については、会議の冒頭で委員長からあったように、昨年度に玉里地区の教職員よって立ち上がった「玉里地区小小連携・小中連携推進委員会」において、継続して協議を行っている。また、今年度の「基本構想」に関しては、教育に関する専門的な部分も多くあるので、その推進委員会における協議結果を反映させていきたいと考えている。最後に、一番下の欄にある「P

TA部会」については平成31年度からの協議予定となっている。  
今年度のスケジュールについての説明は、以上となる。

委員長 質問や意見はあるか。

委員 今年度は校舎のコンセプトづくりという話だが、教育のコンセプトがなく、校舎のコンセプトが作れるのか。私は教育のコンセプトがある程度できてから、建物に移行するのではないかと思っていた。

事務局 他の自治体において、基本構想を策定している例を見ると、教育のコンセプトと施設のコンセプトを別で出している、例えば5つの柱で打ち出しているところがある。その中に教育の部分や説明の中で例に出した「安心・安全な校舎」ということもある。教育面については、委員長からあったように「玉里地区小小連携・小中連携推進委員会」の中で協議していただき、並行して協議していくイメージで示している。

委員 並行という形にはなってくると思う。教育のコンセプトのスケジュールが見えない。例えば、委員長からあった「4-3-2制」にするといった案やどういった教育をしていくかということもあると思う。どこかで合わせなければならぬと思う。それが分かるようなスケジュールをお願いしたい。

委員長 教育のコンセプトについては、今月の29日に「玉里地区小小連携・小中連携推進委員会」が集まり、先ほど言ったように「4-3-2」の方向でいる。なぜ「4-3-2」かということ、5年生、6年生くらいから中学校と一緒になってくるので、教科担任制が可能になってくると想定される。1年生から4年生くらいまでは学級担任制が基本になってくるだろうと思われる。5年生くらいになってくると、教科の専門性も考慮に入れて教科担任制なども部分的に導入していくと良いのではないかと思う。これは構想段階であり、煮詰めていかなくてはならないと思う。そういった方向で考えている。教育目標や教育課程といったことも義務教育学校を見据えて取り組んでいかなければならない。小中連携の学校は、あくまでも小学校と中学校の2つとなっている。その場合、校長は2人となる。義務教育学校となった場合は、1年生から9年生が在籍し、校長が1人になる。そうすると、教育方針が一本化される。1年生から9年生までが統一された教育が可能になる。我々はそれを見通して協議し、煮詰めていこうという段階。我々で話し合った内容について、教育委員会にも共有しあっていただき、施設面、ハード面にも生かしていかななくてはならないと考えている。

委員 並行して協議し、情報を上手く取り合いながら進めていくと良いかと思う。

## (2) アンケート集計結果について

委員長 事前に委員へ資料2を送付している。これは、昨年度に行なった水戸市立国

田小中学校の視察等に関する委員の意見をまとめたものとなっている。事前に読んでいただいているとは思いますが、これをその通りに進めるというわけにはいかない。玉里地区ではこうしなければならないということや良い点などを考慮しながら、より良い学校を造っていかなくてはならないと感じている。意見や質問等があれば、お願いしたい。

事務局 話が戻ってしまうのが、先ほど基本構想という話があった。現在、教育委員会で玉里地区だけではなく、小美玉市全体の小中一貫教育基本方針を策定している。原案が出来上がり、これから教育委員会等を通すので、次回に間に合えば示せると思う。その中に玉里地区の小中一貫教育、先ほど委員長から話があったように、義務教育学校としてのスタートを目指すということ盛り込んで作成中ということをお知らせしておきたいと思う。

委員長 今の話も含めて質問等があれば、お願いしたい。

委員長 小小連携・小中連携の委員会は、今月の29日や7月に開催する。その内容について、副委員長よりお願いしたい。

副委員長 昨年度も実施したが、3小学校と1中学校の4校があり、1つの学校になる上でのすり合わせを今年度も行っていかなくてはならない。例えば、健全育成では、「知・徳・体」というものがある。学力向上の部分、心の育成の部分、健やかな体の育成の部分、それぞれプロジェクトをつくり、話し合っていく。まだ各校での取り組みがバラバラなので、昨年度は他の学校の取り組みに対する共通理解を図ってきた。今年度はそれより具体化し、どういった共通する部分を実施していくのかという話し合いを行って行く。生活のきまりや学習のきまりをお互いにすり合わせ、共通で指導できるものは何かを探りながら行なっていこうと考えている。次回の建設準備委員会には、話し合った内容なども示せるのではないかと思います。

### (3) その他

委員長 事務局から説明をお願いしたい。

事務局 第6回建設準備委員会の開催についてという資料を見ていただきたい。先ほどのスケジュール説明にもあったとおり、視察研修を予定している。視察の開始は平成28年7月11日(月)午後1時からとしている。また、出欠確認の用紙に記入いただきたいと思う。

10時 玉里文化センター コスモス集合

10時10分 出発

11時15分 道の駅こうざきで各自昼食

12時35分 出発

1 2時50分 下総みどり学園到着  
1 3時 視察研修  
1 6時 出発  
1 7時10分 玉里文化センター コスモス到着

委員長 質問はいかがか。

委員 前回の学校訪問を行なった時もお願ひしたが、見るだけではなく、その後のアンケートなど、感想をまとめる時間を設けてほしい。今回のように紙に書いて出すのではなく、委員会の場で意見を持ち寄って行うことにより、良いコンセプトや参考意見が出るのではないかと思う。そういった計画を作って実行した方が私は良いのではないかと思う。皆様はどう思われてるか分からないが。

委員長 次回はコスモス到着予定が17時10分となっている。その後ということか。

委員 別日に行なっても良いと思う。最初にアンケートだけお願いするというのもあると思う。

事務局 視察に行った時の中身、どのように反省として生かすかということだと思う。資料1、平成28年度の実施月を見ていただきたい。次回は7月に先進校視察となり、次々回が9月となり、基本構想を構築していく内容について触れる機会を設けている。一連の流れの中でそういった部分についても進めていく。新しい学校に生かすことを想定しているので、会議の中で意見等をいただきながら調整していきたいと思う。

委員 成田市の学校において、ここだけは見てきた方が良いというところはあるのか。特色のある学校なのか。

事務局 下総みどり学園を選定した理由を説明したい。児童生徒数が小学校265名、中学校134名、合計400名程度となっており、玉里地区4小中学校一緒になった時と同程度となっている。学級数も小学校、中学校ともに各学年2学級ずつであり、殆ど同じとなっている。また、学校の統合を平成26年度に行っている。統合して間もない学校なので、統合前に入学した児童生徒も在籍している。そのため、その雰囲気も分かりやすいという点もあり、選定した。

委員 玉里と同規模ということが1つの条件ということか。

事務局 補足させていただきたい。学校規模、児童生徒数が玉里地区の児童生徒数と類似していることが1つ。また、ハード面、新しく校舎や建設していく立地条件も類似している点がある。資料の上空写真やイメージ図を見ると分かりやすいと思う。校舎の立地等が想定している玉里小学校、玉里中学校付近の立地を含め、目指していく方向性からすれば、あるべき姿として非常にイメージしやすいのではないかと思う。委員に見ていただき、イメージを湧かしながら基本構想に十分反映させていただけるのではないかとすることがあり、

選定したということを追加補足させていただく。

委員 視察先は外見的にこういったようなものが良いだろうということで行くのか。それとも、「素晴らしい教育を行なっている」、「こういった方針があるので行こう」ということなのか。基準がないように思える。教育方針が良いといったことや素晴らしい教育を行なっているということを基準にしなければならぬと思う。同じ人数なのでといった程度の考え方では、なぜ行くのか分からない。私は、もっと素晴らしいところがあると思う。こういった学校へ視察に行くということ自体、これから立てていく教育方針が大まかに一致する方向でないはず。もう少ししっかりとした考え方を持って行なった方が良い気がする。一般質問でも質問させていただいたが、もう少しきちんとした考え方を持って、これから重要なことを詰めていくには、もう少しモデルになるようなところにしていただきたい。先日も言ったが、ダイヤモンドのようにキラキラと光る小美玉市を目指す教育というように言っていたが、何の特徴もない。先ほど、義務教育学校と言った。この説明もきちんとしなくてはならない。これは今年の4月にできた法律。そうすると、皆が分からない。それを皆さんに説明してほしい。これまでは学年区分なども曖昧だった。今回は、はっきりと一貫と言っている。

委員長 そういった方向をある程度、我々で考えていかないと方針が立たないと思う。「6-3」で行う、「4-4-1」が良いといったことがあやふやだった。9年間を見通して、1番メリットがある教育を行うために教職員がソフト面、玉里の4小中学校において授業改善といったことなどに色々取り組んでいるところなので、参考にしながらより良い学校を造っていかなくてはならないと思う。

委員 先ほどの質問もどのような基準で視察にいくのかということだと思う。先ほどの説明だと、外見的に似ているという理由だったと思う。小美玉市にふさわしい特徴を出すためにどのようにするかといったものを狙った方が良いのはなか。

事務局 本年度より新たに委員となった方もいるので、おさらいの部分も含めて説明させていただく。平成27年度は、1月27日に水戸市国田小中学校の視察を行なった。実際に平日の5時間目、6時間目の時間を見学した。また、今回の視察資料では、視察先概要として下総みどり学園について記載している。冒頭、委員長からあったように本市が目指す小中一貫校、義務教育学校等のスタイルといった部分、教育方針の内容等にも重なってくると思う。中段には、前期ブロックを1～4学年、中期ブロックを5～7学年、後期ブロックを8～9学年と記載してある。いわゆる教育区分「4-3-2」という部分について、先ほどのソフト面やハード面だけではなく、本市が目指すべき姿に類似している。参考にするべきものであるというイメージを持った上で選定している。また、今回は事務局で視察先を提案し、日程を組んでいる。しかし、これから基本構想を煮詰めていくにあたり、同じように現地視察等

を考えていくことも十分に可能だと思う。また、県内においても、義務教育学校に移行した学校、春日学園などもある。今後、視察を行うのであれば、委員から提案いただくことも可能だと思う。全てが協議を行い、まとまるというものではないかと思うが、意見交換・情報の交換といったところで柔軟に会議の中で対応していきたいと考えている。そういったことを含めて理解いただきたいと思う。

委員長 それに対する質問や意見はどうだろうか。

委員 基本構想の具体的な内容はこういったものなのか。それはどこかに記載してあるのか。

委員長 次々回の建設準備委員会で小美玉市の小中一貫教育基本方針を示せるのではないかという話が事務局からあったので、それが次々回に示されるのではないかと思う。

委員 それはソフト面、ハード面の両方ということか。

委員長 それを9月までに決めるためには時間が足りないと思う。ある程度の方針は立てられるのではないかと思う。

事務局 現在、市で策定している小美玉市全体の小中一貫教育に関する基本構想については、どちらかというとソフト面に関するものとなっている。施設面までは規定していない。委員から出ている意見は、学校の特色を明確にしていくと良いのではないかという意見だと思う。市でこのような特色の学校を造ってほしいとすることは、違っていると思う。「小小連携・小中連携」において、ソフト面の構想を作成している部会で出てくるものを建設準備委員会で共有し、理解いただき、学校の特色についても徐々に明確になっていくのではないかと考えている。そこまでは市で規定しているものではないので、地域の特性等を十分に発揮できる学校については、この委員会に預けたい。

委員 私たちは何を考えていけば良いのか。

事務局 基本構想は、スケジュールの中で説明させていただいた通りとなっており、建物を造る際には、基本設計と実施設計という設計図書が必要になってくる。その基本設計を作る前に、この学校をこのように作りたいという委員の思い、魂の部分を作ることが構想といわれるものである。こういった学校を作ってみたい、こういった教育を子ども達に受けさせたい、そのような部分を、この委員会で地域に合った学校のスタイルを検討していくと考えていただくと分かりやすいかと思う。そして、出てきた意見を施設に反映すれば、その思いに適した建物が建てられるかということに繋がっていくことになる。いわゆる設計の与条件といったものをコンセプト的であったり、このような諸室が欲しいであったり、このような規模で欲しいであったり、このように建てたい、このような向きにしたいといった設計に入る前段階の部分と考えていただくと分かりやすいのではないかと思う。地域の方々、学校の先生、市役所、様々な人が関わっているので、色々な切り口から新しい学校を作るといった思いで色々な意見を侃侃諤諤と交わしていただき、その意見を構

想としてまとめ、設計に生かし、建物の建設に進んでいきたいと考えている。  
 委員 学校づくりについて、県教育委員会や文科省などでも建設委員会を行っているが、マニュアルのような資料はあるのか。各地域でこういった建設委員会をつくると、教育内容についても平均した教育ができないという気がする。  
 委員長 施設面と教育内容の両方あると思うが、どちらか。  
 委員 例えば、小美玉市に住んでいた人が転校した場合、小美玉で受けた教育内容やレベルがあり、転校した学校で違った教育を受ける状況もあると思う。  
 委員長 文科省が現在、小中一貫校の推進において注意してほしいとしていることが委員の意見にあった内容のこと。教科書の進度等によって、転入、転出する児童生徒にやり残しが発生しないようにという注意事項が入っている。学習内容も教科書中心で行うことになるので、その点は十分に考慮していかなくてはならないと思う。  
 委員 教育には教科書を中心に行う教育があると思うが、子どもが自ら学んでいく教育が進められるのだと思う。  
 委員長 その通り。  
 委員 そのような学校を造るとなった場合、学校の構造が違ってくると思う。おそらく、今までどおりのクラスを作って行うということとは違う。なので、そういうところをしっかりとしてほしい。説明者によっては説明が違う。離れている。外見的なことに囚われた説明が多かった。良い教育を行うにはどうするかといった部分が話題に出てこない。どうなってしまっているのかと思った。建設すれば良いという方向だけではまずいと思う。  
 委員長 ソフト面の教育内容については、副委員長から話があったように、それを煮詰め、教育委員会と共有しながらいかないといけないと思う。建物も建てるといったハード面とソフト面がバラバラではないということ。共有していき、より良いものをつくるという話をしたかと思う。建物だけが進んでいるわけではない。  
 委員 それはあなた方の立場の話。委員達はこういった方向でいくのだろうと思っていると思う。委員達は色々と意見を言おうということで来ている。それは教育委員会も含め、委員長たちの話。それとは違うと思う。ここでは良い教育をするためにどのようにしていくかという話をするのだと思う。委員に分かりやすいような安心できるような説明をしていただくということなのではないか。色々なものが出てきているが、皆が心配している。こういったものかということを丁寧に説明し、それを行いながら重ねていくことが大事だと思う。  
 委員長 一番大事なことは、教育内容だと思う。先ほどから言っているように「小小連携・小中連携」で集まり、どのようにしていくかというソフト面を検討していきたい。もっと具体的に方向性を決めて説明していかなければ、先ほどあったように建物は建物、中身は中身といったようにバラバラになってしまうと思う。一番大事なソフト面については、「小小連携・小中連携」で話し

合い、具体的な方向性を次回に説明していけるのではないかと思う。

委員 皆が分かりやすく安心できるような説明をしてほしい。決まりきった言葉で言っていたのでは分からない。自分達の言いたいことを言っているだけで、皆が分かるような説明ではなかった。お願いしたい。

委員 すり合わせを行っていると言っていたが、これは大変だと思う。色々な条件が違った中で行ってきた教育をすり合わせるのも、合わないことが色々出てくるわけで、そのすり合わせの中で保護者が負担になるようなことだけは絶対に避けなくてはならないと思う。これは最大の難所なので、十二分に気を付けて行ってほしい。小中一貫となってから、統合しなければ良かったということにならないようお願いしたい。また、アンケート調査を見ると、国田小中学校はクラス数や児童生徒数など、色々なことが玉里地区と違っている。何故そういったところを見てきたのか。次回の視察は、クラス数や児童生徒数が同程度の学校を見に行くとしている。それを何故、最初に行わなかったのか。最初に行く時には同じような条件を選んでいると思う。例えば、小美玉市が他自治体を視察する時には、同じような人口の同じような組織の中で行っている自治体を選んで行っていると思う。アンケート調査に出てくるように、クラス数や児童生徒数など、規模的にも違うところを何故視察したのか不思議に思う。距離的に近いということは良いと思うが、条件が違うところを視察しても意味がないのではないか。建設の準備委員会というのであれば、建物や土地などが参考になるところでなくてはならないのではないか。

委員 私は見に行った。結構良い印象を受けた。見て良かったと思った。それは結果論であって、元々の目的は何だったのかということはあるのだろうが。

事務局 今回は規模や目指すコンセプト部分が似ていることがあり、成田市を選んだということがあったと思う。国田小中学校の視察を行った段階では、小中一貫校が県内にはそれほどなかった。実際に国田小中学校は、今年の4月に義務教育学校に移行している。27年度から準備委員会を組織したということもあり、言葉や書類等で小中一貫校の内容や目指すものは何かということを知りたい。学ぶ形をとるよりも、現地はどのようなものかを見に行きましょうということだった。委員の意見のように踏み込んだものではなく、まず委員に身近なところでどういった施設があるか、またコンタクトが取りやすかったということがあったということが主な理由となっている。

委員 終わったことだから、仕方がない。

委員長 疑問点があれば、言っていただきたい。

委員 実際に教育をするのは先生だと思う。先生の立場では、今までのスタイルの学校と小中一貫校について、どのように思うのか。小中一貫校にした方が教育の効果等は期待できるのか。

副委員長 小中一貫校としている学校の成果としては、不登校児童生徒の減少や学力の向上、規範意識の高まりといったことがある。小学校と中学校の境目、小学

校6年生から中学校1年生に上がる時、ここではよく「中1ギャップ」といわれるものがある。ここで不登校等が増加する。その「中1ギャップ」をなくした場合、スムーズな移行ができるようになる。それを9年間の連続した流れの中で進めることにより、効果が大きいと期待される。

委員長 玉里地区は、いずれの小中学校も小規模となっている。教員が少ないと、専門教科の先生が少なくなる。例えば、国語専門の先生が中学校に2人しかいないということがある。小学校に国語専門の先生がいる場合は、互いに良い点などを検証しあい、子ども達により良い教育ができる。例えば、小学校に音楽や美術、英語の先生がいない場合、中学校には必ず専門の先生がいるので、専門の先生が指導できる。そういった面で教育がより充実すると言われている。

委員 お願いがある。昨年から参加していて感じたことがある。スケジュールにおいて、何年度からと決まっていることは良いことだが、決める項目があっても判断する材料が何もない。なので、できれば我々に出せる資料は殆ど出していただきたい。もちろん見せられない資料もあると思う。見せられるものは全て出していただきたいというお願い。小中一貫校が始まったばかりなので資料が少ないということ分かっているが、あまりにも判断する資料が少ないため、検討もできない状態となっている。イメージがつかない。昨年度から1年近くなるが、あまり先が見えていない。そういったことは、今回からの委員は更に感じていると思う。

委員長 施設面よりも教育内容などのソフト面のことかと思う。どういった教育ができるかといったソフト面をもっと示していかなくてはならない。「小小連携・小中連携」で話し合っている内容、どのような教育をしていくかということについて、これからもっと多くの資料を提示していきたい。

委員 今年のスケジュールには6月、7月、9月、10月、1月、2月に開催するとあるが、何を行うかが分からない。具体的に何月に何を行うのか。来年は基本設計に入ることになる。7月は視察となっている。あと4回の委員会で基本構想を決めなくてはならない。このペースでいくと絶対無理だと思う。ソフトの意見が何も出ていない。そのくらい切羽詰まっているのではないか。更に細かいスケジュールで詰めていかなくてはならないと思う。そうすると、ここまでにはこういった資料ができていなくてはならない、こういった資料は我々に見せていただかないといけないということに関しても計画を立てなければ、今年がすぐに終わってしまう。先日のアンケートにもそういった意見を書かせてもらった。もっと具体的な計画を作り、何が必要なのか、委員に何をしてほしいのかといったことをしないと、具体的な内容がないと、コンセプトが決まらない。

事務局 今年度に基本構想に着手するという説明をさせていただいた。スケジュールの実施月を見ていただきたい。次回は7月、次々回は9月に予定をしている。7月には基本構想に関して、業者が入って内容を揉んでいく形になると思

う。そして、委員に早い段階で示せるものがあれば理想的だと思う。しかし、まだ具体的に詰めている部分がないという現状。そこについては、9月の委員会に基本構想の具体的な姿、あるいはそれを含めた10月、1月、2月に予定している内容の全体像も見えてくることも考えられる。もう少し時間をいただきたい部分があるので、理解いただければと思う。

事務局 訂正させていただきたい。全く持ち合わせていないということではなく、この組織にプラスでコンサルタントという専門家を7月から契約していく予定。そのコンサルタントの条件を整えば、我々が骨組みを練っている部分とコンサルタントの専門的な部分を合わせることができ、間違いなく次々回の9月には詳細な検討事項、こういったことをいつまでに検討していく、構想の中身はこのような骨組みになっていくということを示すことができると思う。そうすれば、委員がどのタイミングでどのような話し合いをしたら良いかを明確に把握することができると思う。そういった準備で我々は進めている。今日の会議においては、事務局の不手際でイメージが湧かない、資料が足りないなど、説明不足な点があったかと思う。次々回までには、皆様方に集まっていただいて議論をするにふさわしい資料等を用意し、今年度の基本構想完成を目指していきたいと思うので、協力をお願いしたい。

委員 要は、はっきり分からないのだと思う。新しい委員に書類を渡しても、読んだだけではなかなか理解できないと思う。理解を深めるためには、丁寧に説明しないと難しいと思う。方針やスケジュールを立てておいた方が分かりやすい。

委員長 これから少しずつ形ができていく中で分かりやすくなっていくと思う。第1回は、こういった方向で進めて行きましょうということで話があったと思う。

委員 私も今回が初めてなのでよく分からない状態だが、先ほどから話を聞いていると、メリットははっきりと分かるが、小中一貫とした場合のデメリットがあるのではないか。それについて話が出ていない。メリットの面は子ども達にとって良いと思うが、小中一貫となることよって子ども達に害を為すことはないのか。メリットがあれば、デメリットは必ずあるのではないかと思う。デメリットに関して全く記載がない。良いところばかりを並べていても、デメリットが見えていないと、結局はどうなのだろうかと思って聞いている。

委員長 これから話し合う中で、問題点はないかということをお我々で協議をしていかなければならないと思う。例えば、こういった取り組みをしていった場合に、それに対して子ども達はどうかということをお明確にしていかなければいけない。そういった方向でいるが、今はそこまでいっていないということ。

委員 説明の中に、こういったデメリットがあるということが全くない。専門の先生が来るから良いという話があるが、デメリットの面での情報が入ることがないかと聞いた。初めてなので全く分からないが、どうかののかと思ひ聞いた。

委員長 義務教育学校等は数が少ないので、情報が少ないということがある。それは

	色々と「小小連携・小中連携」の中で協議をしていかなければ、簡単には言えない。それも追々説明できるのではないかと思う。
委員	ぜひ、我々が安心して活動に参加できるような準備をしてほしい。
委員	コンサルタントが入るとのことだったが、すでに業者が決まっているのか。これから選定なのか。
事務局	7月下旬に決まる予定となっている。こちらが考えていることとコンサルタントが考えていることをすり合わせを行ない、次々回の9月に具体的なものを示せると思う。
委員	何社かの中で一番玉里の考えと近いところを選ぶのか。こちらが提案したものに業者に近づけていただくということか。
事務局	選定方法については、あくまで入札となっており、金額で決まる。
委員	コンサルは入札ではないのではないか。入札は建物を造る時の話ではないか。コンサルも入札なのか。
事務局	コンサルも入札となっている。
委員	そのコンサルタント会社は、建設内容のものなのか、教育内容と建設内容の全てをコンサルティングしていただけるのか、部分的なのか。
事務局	基本的には建設設計事務所なので、ハードの部分は当然建設設計事務所が強い部分。この部分については十分期待できると思う。ただ、教育内容といったソフト面、どういった学校づくりをしていくかというところは、「小小連携・小中連携」や本日の会議のような会議を何回か重ね、その意見を取り入れてソフトの部分を組み入れていきたいと考えている。建築設計事務所では委員の意見をまとめるという作業になると思う。
委員	建物のコンサルタントであり、ここで出た話をそのコンサルタントがまとめあげるということで良いのか。話した事をコンサルタントがつくっていくということか。
事務局	イメージとしては、一緒に作りあげていくというように考えていただければと思う。もちろん、この委員会での意見が最大限に尊重されると思う。専門家なので、全国の情報などのさまざまな情報を持ち合わせているかと思う。そういったものと、この委員会が出された意見などをすり合わせながら、また委員にその都度フィードバックし、委員の意見はこのように表現されたということを侃侃諤諤、共同で作っていくようなイメージでよいかと思う。
委員	同じ部屋の中でやるということが良いか。
事務局	その通り、コンサルタントもこの委員会に出席する予定。委員の声を直接聞いていただく。専門家に質問があれば、直接意見をぶつけていただきたい。そのような会議を数回設けたい。今回の委託内容にそれも含まれている。繰り返しになるが、一緒につくっていくということによって理解いただければと思う。
委員	そういった話をもっと出してほしい。そういった方針が決まっているのであれば、資料に書いておいてほしい。聞くと小出しにしてくれる。本当に分か

らない。次回までには全体的な動き、先々までのものをもう少し分かるようにしてほしい。そうすれば会議ももう少しスムーズに進むと思う。おそらく皆、何をすれば良いのだろうと心配している。

委員 今まで積み上げてきて、ここまできた。しっかり捉えて、前に進むように指導していかないとならないと思う。もっと丁寧なことを行なわないといけない。元に戻った話がたくさん出てくる。

委員長 それでは、次々回までには方向等の内容が分かるようなので、そのような委員会に出来れば良いと思う。本日は、多くの意見をいただき、ありがたく思う。

20 : 22 閉会